



期末試験も終わり、もうすぐ待ちに待った夏休みです。夏休み期間は「読書月間」です。「今月のおすすめ本」では、青少年読書感想文全国コンクールの課題図書を紹介しています。長い夏休み、課題図書だけではなく、ぜひ色々な本を読んでみましょう。今月の図書館前廊下展示ケースの特集は「異常気象 気象業務開始から150年」です。

北豊島工科高校図書館 高木 千里

特集展示 「異常気象 気象業務開始から150年」



「気象業務」は、明治8年（1875年）の開始以来、令和7年（2025年）に150周年を迎えました。現在気象庁では、気象、地震、火山などの自然現象を24時間365日、絶え間なく監視し、観測結果を瞬時に集約して解析し、天気予報や、防災のための情報を発表しています。「異常気象」とは、過去の通常の気象から大きく外れた気候の状態を指しますが、2024年夏、今年6月、私たちの国日本では猛暑が全国を襲い、観測史上最高の平均気温を記録しました。このような昨今の異常気象、自然災害の多発で、気象観測業務の重要性は益々高まっています。

今回の展示では、この「異常気象」を取り上げ、「地球温暖化」を食い止めるために私たちが出来ることを考える本などを集め、展示しています。

特集展示からの おすすめ本



図書委員からの おすすめ本

今月は3年生・図書委員からのおすすめ本を紹介します。

「強力伝・孤島」 新田次郎 新潮社

此の小説は、短編集となっています。内容としては、主に山、自然に挑む人々を描いており、実際に有った事件を元とする短編も二、三載せられているので、とても読み応えの有る本です。面白いので、是非読んでみて下さい。

「そこに工場があるかぎり」

小川洋子 集英社//509.21 オ

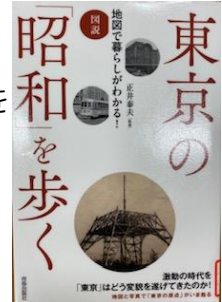
「長年抱き続けている工場への思い入れを、本の形にして記したい。子どもの私が味わったあの瑞々しい体験を、作家になった今の自分の言葉でよみがえらせてみたい。」（あとがきより）芥川賞や本屋大賞など数々の賞を受賞した作家の「ものづくり」への愛しさが綴られる工場見学エッセイです。ものづくりの底力やものづくりへの作者の尊敬の念が感じられる1冊です。



「東京の「昭和」を歩く」

正井泰夫 青春出版社//213.6 マ

2025 年は昭和元年からちょうど 100 年目の年です。戦争から戦後、高度経済成長、バブルの時代など、昭和は激動の時代でした。私たちが暮らす東京の街が、この 100 年でどう変貌を遂げてきたのか、地図と写真で振り返ります。池袋サンシャイン 60 も登場します。



「「コーダ」のぼくが見る世界」

聴こえない親のもとに生まれて」

五十嵐大 紀伊國屋書店//369.2 イ

読書感想文コンクールの課題図書です。芸術鑑賞教室で観た映画「コーダ」を覚えていま



すか？もしも両親の耳が聴こえていたら、なにか変わっていたのだろうか。「可哀そうな人たち」と言われることもなかったのだろうか。筆者は断言します。「このままがいい」と。

「高校生のためのアドラー心理学入門」

岸見一郎 アルテ//140 キ

「アドラー心理学」とは、人間を精神や肉体などで分割せずに統一された存在として捉え、「誰もが幸福になれる」という前提に基づいた心理学のことです。と言っても具体的にどういうことなのか、よくわからないのではないかと思います。こ



の本では、高校生に向けてそのアドラーの教えを説き、自分らしく生きていくためにはどうしたら良いのかを教えてください。「現実は厳しい。」けれど「純粋な心はいつでも夢を見るものだ。」

読書感想文コンクール課題図書

「銀河の図書室」名取佐和子 実業之日本社//913.6 ナ も、図書館前廊下展示ケースの中にあります。



【北豊島工科高校図書館からのお知らせ】

7月7日(月)から、夏休み貸出が始まっています。

夏休みの貸出は、ひとり20冊、期間は9月1日(月)までです。

夏休み中、図書館は休館となります。7月18日の終業式までに借りにきてください。

図書館の開館時間は8:30~16:30です。お待ちしております！

